

第4回検討委員会における主な委員意見等

企業への働きかけに関すること	地域では大概のことはやりつくしており、どんな案を出しても煮詰まっているということがあるが、ひとつあるのは「企業の協力」だと考えている。もちろん、企業は地域住民とは違って、少し違うエネルギーを持たないとやれないと思うが、いろんなやり方があると思う。 今は共働きの世代が多すぎる。その方々を巻き込まないとこれ以上は進めない。企業や大学とか、そういうところと一緒に力をもろうということ。 そのためには、担い手をはっきりしなければならない。自治基本条例の最初には、よく主体の責任と役割が書いているが、その時に「企業」を入れることが重要ではないか。そう考えると、これは条例をつくらないと無理かもしれない。 企業人と言うか、実は、この皆さんの中で、本当は地域活動やりたいけれどもできないという人はいっぱいいると思う。地域にいる30、40代の人の中にも、町内会長やってもいいと思っているけれども、実際に仕事をやりながらというのは、おそらく、今の企業の実態では無理。 だから、町内活動を企業の活動として認める、そのかわり、町内に行ったらいろいろな人の話を聞いて、商売に役立つことにもつながるような取り組み環境をつくってやると、人材もどんどん増えてくると思う。そういう努力が必要だと思う。 二十何歳の町内会長が出て、地域活動で何で町内会長をできているかと言うと、彼はウェブの仕事をしているのだが、町内会長をしたらウェブの仕事がものすごく増えたと言っていた。昔、酒屋さんが町内会で動いていたのは、そういうこと。
絆づくり	(地域の絆づくりについて) 一番は「気づき」だと思う。一人一人に気づいてもらう、地域にも気づいてもらう。行政はある程度気づいているつもりなのでしょうが、気づく。そして、いろんな地域の強みとか、弱みを踏まえた、いろいろな魅力づくりも必要。 (地域の絆づくりについて) 一番に「情報」が大事ということになった。情報を共有するのが絆づくりならば、情報をどのように得るかということも問題。 地域包括ケアシステムを生かして取り組みを進めていこうとするときに、コミュニティと言うけれども、このコミュニティの規模についてもう少し絞って、身近にできることからやるという規模のあり方もある。

絆 づ く り	つつみカフェは、今までの事業と違っている。何が違っているかと言うと、何か事業をするときに、普通は動員をかけながら参加してもらうが、そうすると出てくる人はほとんど同じような人になるという課題があった。 しかしながら、このカフェは全く自由参加となっている。それでも1回に100人ぐらいは出てきていただいている。 ボランティアの方々に対する業務分担でも、普通は「あなたは〇〇」ですと割り振りしながら事業をするが、このボランティアに対しては全く要請していない。誰が来られるかも全くわからない。 「私は今日、午前中しかあいていまして、お昼からは失礼します」あるいは、「午前中はできなかったけれども、午後があいたから来ました」という形でしてもらっている。 もう1点は、この事業には、地域の事業所にも参加してもらっている。そして、専門的な立場に立たれて、相談コーナーは私のほうで受け付けますよといった形で、地域上げての事業として出来上がっている。そういう意味で、大きな変化を見た、事業に対する見方が大きく変わりました。 これからは、こういう事業こそが住民参加型の事業になってくるんじゃないかなと思っている。
負 担 軽 減	地域では、防災、防犯、交通安全のパトロールなど、様々な活動を積極的に行っている。特に近年は皆よくがんばっている。そして、学校との関係や高齢者の問題、孤独死の問題なども含めて細かいところに配慮しながら地域は取り組んでいかなければならない。そういう意味では、地域の役割はいろいろな面で大変な状況になっている。 一方で、現在は、世帯主の名簿も中途半端なものしかない。行政はもっと共働という意味を考え、地域の協力が本当に必要であるならば、もっとインセンティブとか、条例とか、地域の団体をどう見るのか、そういったことについて強く方向性を打ち出していけば、地域の人材不足というものも少しは解決していくのではないかなと思っている。 今、福岡市のコミュニティはうまくいっているという話があった。しかし、そういったことも考えていかないと、今後厳しくなっていくと思う。
そ の 他	みんなそれぞれ能力を持っているから、その能力を還元する方法を考えたいが、まず、行政職員に地域活動に参加してほしい。 地域の核になる公民館と地域の連携がとにかくうまく機能するようにすることによって、もっといろんな意味で地域の情報が活かされていくのではないかな。